

まげもの どうぐ 曲物の道具

まげものは、スギやヒノキなどのうすい板を曲げて作ります。平安時代や鎌倉時代の絵巻物に、曲物がたくさん描かれていることから、昔から広く使われていたことがわかります。



めんば

のうさぎょう やましごと 農業や山仕事に出るときに持っていった、曲物の弁当箱です。この形のは、東北地方から九州地方まで用いられていて、地方により「曲げわっぱ」「ねんば」「めんつう」などもよばれています。これは、ながのけんき そちほう 長野県木曾地方で昔使われた「めんば」です。

ねんば

これは、岐阜県白川村で昔使われた曲物の弁当箱で、「ねんば」とよばれていました。



ゆとう 湯桶

お湯やお酒、汁などを入れてそそぐための容器。現代では、おもに、そば湯を入れる容器として使われています。



おぼけ

ほくした麻の繊維をためておく入れ物です。庶民の衣服の素材は、木綿が普及する江戸時代まで、おもに麻が使われていました。この絵は、『絵本貞歌仙』(江戸時代)で、女性たちが、おぼけから麻の繊維を取り出して、糸を作っています。



↑「おぼけ」は、「おけ」ともいわれましたが、「おけ」という名称は、たが物に使われるようになりました。

平安時代後期に描かれた

『鳥獣戯画』にも曲物が登場！

『鳥獣人物戯画 断簡(甲巻)』(平安時代後期)。子ザルをおんぶしたサルが、頭に曲物の大きな入れ物をのせています。



ふるい

粉や粒状のものをに入れてゆすり、網目より小さなものを落として、分別する道具です。



せいろ

もち米やまんじゅう、いもなどを蒸すときに使う道具。底が、すのこになっていて、お湯をわかした釜やなべの上のせて、湯気で蒸します。



てしやく 手燭

室内で持ち歩くあかり。上下の輪の部分に、曲物です。ろうそくを入れて使いました。



ひしゃく

水や湯をくむ道具。曲物の筒に、柄をつけています。ひしゃくには、竹製や金属製などもあります。



さんぼう 三方



「折敷」というお盆に台をつけたもので、神様へのおそえ物をのせます。「三方」という名は、台の3面に穴をあけていることから。お盆のふちと台は、ヒノキを曲げて、ヤマザクラの樹皮でとして作っています。